

文化

▼昭和20年の『主婦之友』奈良市内の古書店で、かつて入手した小さな雑誌『主婦之友』が手元にある。昭和20(1945)年3月号で、A5判の粗末なザラ紙に印刷された52頁、定価40銭の雑誌である。

その内容は、アジア太平洋戦争末期の緊迫した国内状況を生々しく伝えてくれるものだった。表紙は暗闇の中、バケツの水を火元に投じて消防活動をする女性の真剣な美しさが、読者に伝わるように描かれ、「防空戦闘」「勝利の頑張り生活」の文字が配されている。

▼その構成

巻頭言では「勝利は春と共に今は真冬の頑張りだ」として、春は近い、戦争は頑張りだ、元気を出そ

新 な 民俗通信

22 鹿谷 熊

米の節約で粥に注目

うと六カ条にわたって読者を鼓舞したあと、「頑張り生活」「比島挺身斬入隊戦記」「女子勤労と工場生活」「娘ばかりで航空機を造る工場 女子生産特攻隊戦記」などの記事が、ほぼ軍関係者で執筆されている。

さらに「急病の応急手当」「女子作業服一揃ひの作り方」「男女戦闘帽用防空空垂布の作り方」「初期防火に

ズアップした山口蓬春の絵で、消防活動をする女性の「捨てていた部分の完全活用」、糖分は芋や大根から、燃料がなくなるので「火なし食」を勧め、乾燥野菜や

ネギの根や里芋の皮などを「捨てていた部分の完全活用」、糖分は芋や大根から、燃料がなくなるので「火なし食」を勧め、乾燥野菜や

スカウト名古屋空襲に学ぶ「これだけは忘れるな!」

「これが実行せよ」など、銃後の生活のノウハウを伝える記事が続き、獅子文六などの連載小説や短歌(土屋文明選)や俳句(水原秋桜子選)の欄もある。

▲戦時食生活



雑誌『主婦之友』昭和20年3月号の表紙

戦時下の「郷土食」調査

ことは、いふまでもないことです」としたうえで、

この3月号は奥付では「2月6日印刷納本」とある。約一月後には、33万発以上の焼夷(しょ夷)弾を投下され、一夜で10万人が死亡し、罹災(りさい)家屋は27万戸にのぼったといふ

「東京大空襲」が起こる。

こうした戦争体制遂行の

ための国民の食生活に対す

る指導は、直接間接を問わ

ずさまざまな方法で行わ

れ、文芸春秋・現代・婦人

俱楽部・主婦之友などが

立された「食糧報国聯盟」

も、全国的な食糧調査を官

公署や教育機関に依頼をし

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、

機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」

の報告書の位置づけ

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、

機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」

の報告書の位置づけ

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、

機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」

の報告書の位置づけ

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、

機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」

の報告書の位置づけ

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、

機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」

の報告書の位置づけ

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、

機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」

の報告書の位置づけ

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、

機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」

の報告書の位置づけ

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、

機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」

の報告書の位置づけ

た。

奈良県では、県女子師範

学校家事科がその依頼を受

け、奈良県下居住者約12

0人の夏休み中の家庭での

食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての

所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦

前戦中の奈良県下の郷土食

の全貌(ぼう)が捉えられ

る貴重な資料と評価してい

る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、
機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」
の報告書の位置づけ
た。

奈良県では、県女子師範
学校家事科がその依頼を受
け、奈良県下居住者約12
0人の夏休み中の家庭での
食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての
所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦
前戦中の奈良県下の郷土食
の全貌(ぼう)が捉えられ
る貴重な資料と評価してい
る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、
機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」
の報告書の位置づけ
た。

奈良県では、県女子師範
学校家事科がその依頼を受
け、奈良県下居住者約12
0人の夏休み中の家庭での
食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての
所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦
前戦中の奈良県下の郷土食
の全貌(ぼう)が捉えられ
る貴重な資料と評価してい
る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、
機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」
の報告書の位置づけ
た。

奈良県では、県女子師範
学校家事科がその依頼を受
け、奈良県下居住者約12
0人の夏休み中の家庭での
食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての
所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦
前戦中の奈良県下の郷土食
の全貌(ぼう)が捉えられ
る貴重な資料と評価してい
る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、
機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」
の報告書の位置づけ
た。

奈良県では、県女子師範
学校家事科がその依頼を受
け、奈良県下居住者約12
0人の夏休み中の家庭での
食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての
所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦
前戦中の奈良県下の郷土食
の全貌(ぼう)が捉えられ
る貴重な資料と評価してい
る。(「『郷土食の研究』

の発見」なら民俗通信84、
機関として昭和15年秋に創立された「食糧報国聯盟」
の報告書の位置づけ
た。

奈良県では、県女子師範
学校家事科がその依頼を受
け、奈良県下居住者約12
0人の夏休み中の家庭での
食事を報告させた。その結果が『郷土食の研究』(奈良県下主食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和16年3月』と、『郷土食の研究』(奈良県下副食部之部)、『食糧報国聯盟本部刊、昭和17年2月』として刊行された。

この両報告書についての
所在を現物確認した食文化

研究家・安原美帆氏は、戦
前戦中の奈良県下の郷土食
の全貌(ぼう)が捉えられ
る貴重な資料と評価してい
る。(「『